

見習い魔法使い君

Apprentice Wizard and his Bluebell Flower.

花の名前



R18
Adult only



見習い魔法使い君と花の名前

Apprentice Wizard and his Bluebell Flower.

※本作品はR18です。
18歳未満の方の閲覧はお断りいたします。

はじめに

本作の作中に出てくる“魔法”は
独自の解釈・定義づけをしています。

実際の“魔法の定義”とは異なる部分がありますので、
諸々違和感があっても大目に見ていただけると幸いです。

——恥ずかしながら

「女の子に
抱き締め
られる」

なんて経験は
今 この瞬間が
人生で初めてのことで



このあまりにも幸福な
感触はひとまず
さておいて

まずは
何故こんな
状況になったのか
経緯の説明と

弁解をさせて欲しいと思う



遠い日

街外れの森に
魔物が発生して
多くの生命が
呪われ取り込まれる
災害が起きた

その討伐のために
近辺に工房を持つ
魔法使いが
協力するという
非常事態

当時 幼い僕は
師匠に連れられ
その様子を
見ていた

その
帰り路のこと

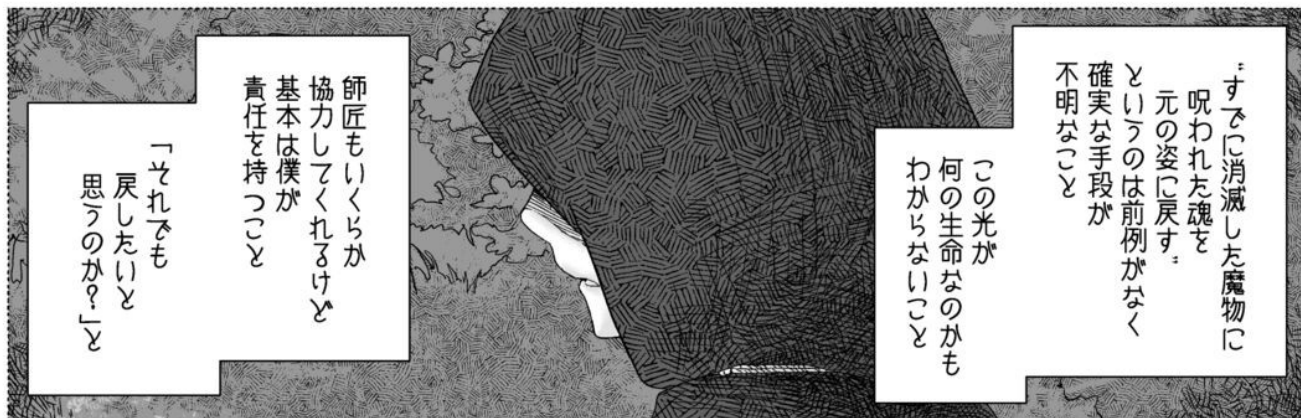
森の片隅に
ひっそりと咲く
ブルーベルの花を
小さく照らす光を
見つけた

あの魔物に
取り込まれずに
済んだ生命の光

その光が
とても優く
綺麗だったから

何とか
助けたいと
思った僕は
師匠に
相談を持ち掛けた

師匠は
少し考えたあと
僕に
問いかけた





この光を
あるべき姿に
戻したい
一心で

ただただ





つたえは
なかつたけれど
どんな時だって

その光は
優しく暖かくて

いつしか
それが僕の
心の支えになっていて

親元を離れ
子供一人で暮らしている
この工房でも
孤独だとは思わなかったし

僕は勝手に
この生命のことを

友達や
相棒や
家族のように
思っていた

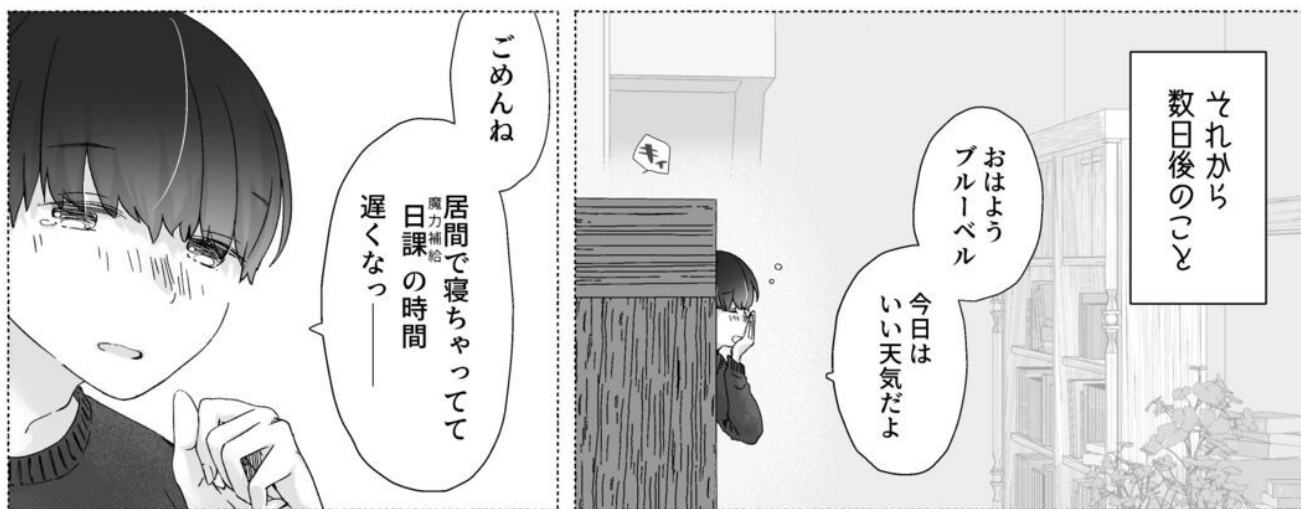


——
ブルーベル？

——あの日から
10年以上が経ち

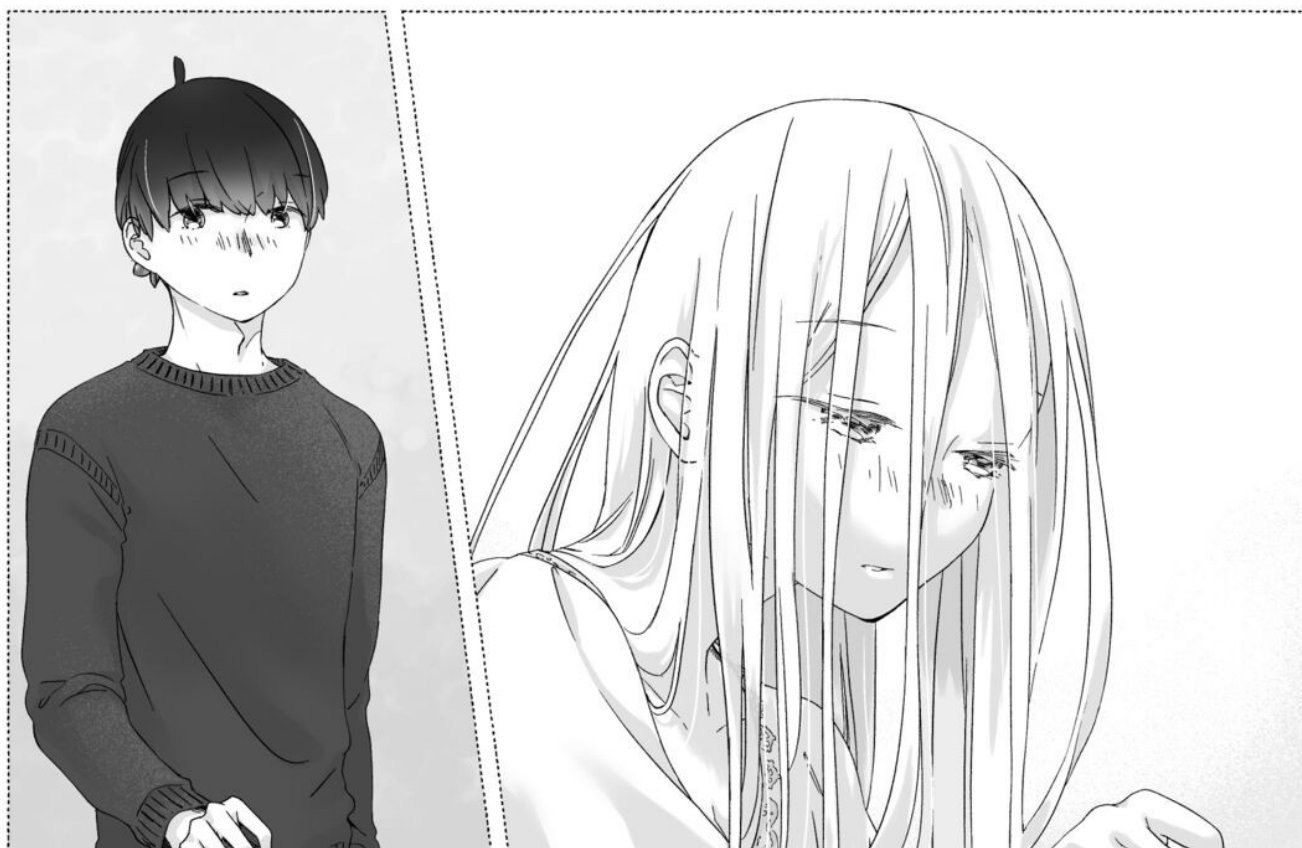










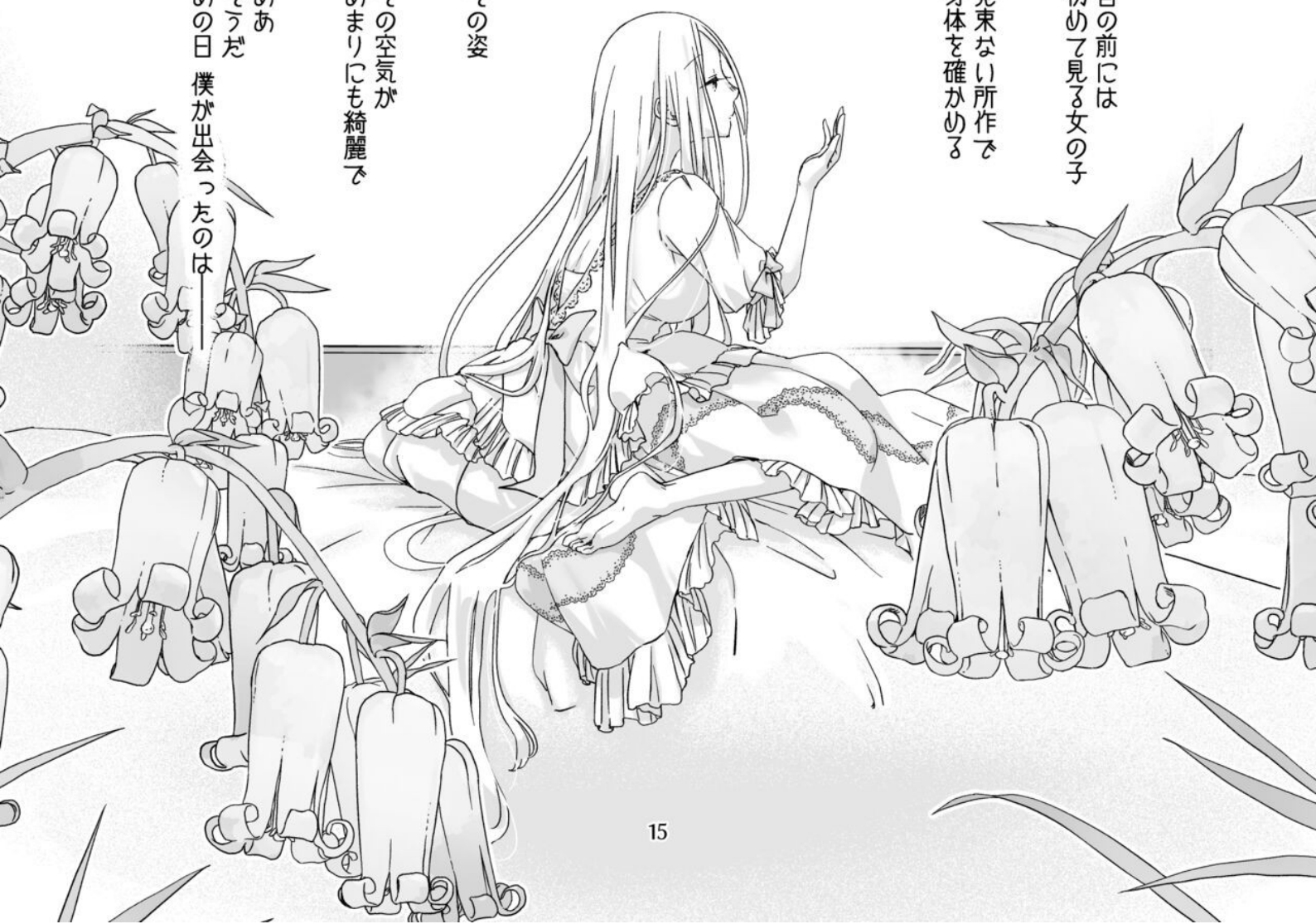


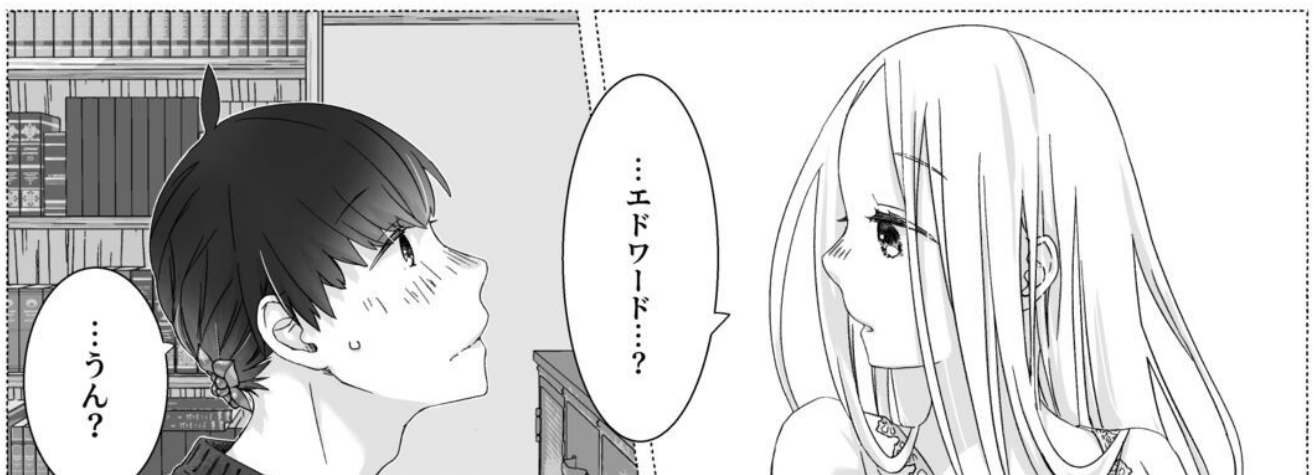
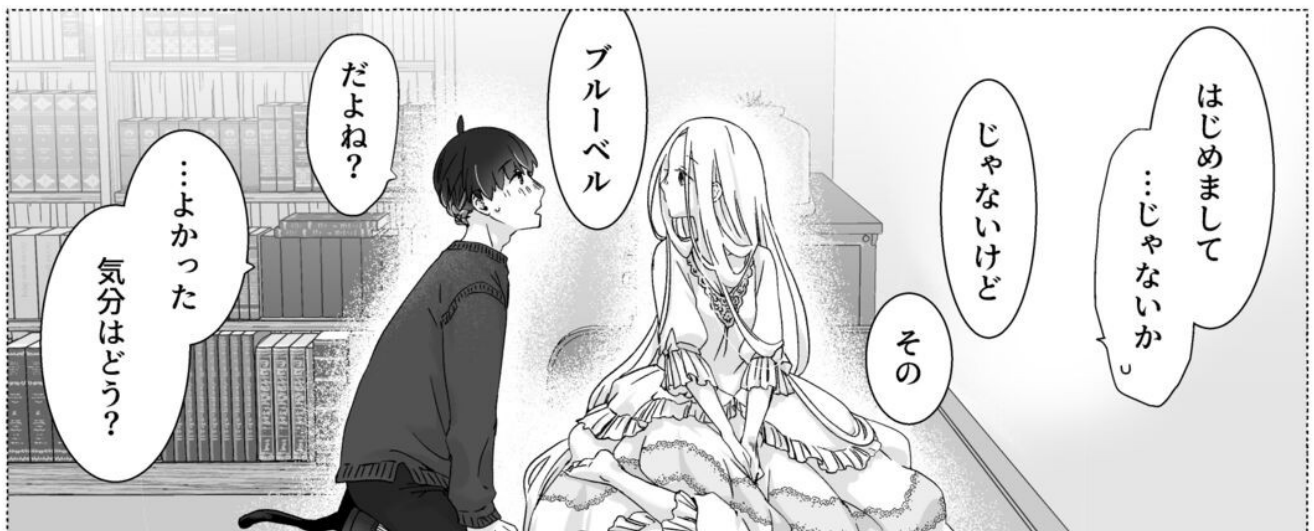
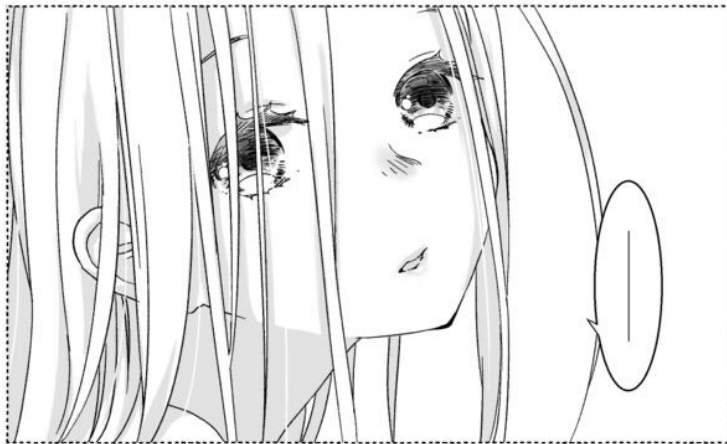
目の前には
初めて見る女の子
覚束ない所作で
身体を確かめる

その姿

その空気が
あまりにも綺麗で

ああ
そうだ
あの日 僕が出会ったのは







そして
話は
冒頭
に戻











肉体が安定するまでは
毎朝の日課は
続けることになり

それと

変わらない
日課が
もうひとつ

エドワード
エドワード

お仕事
終わった？

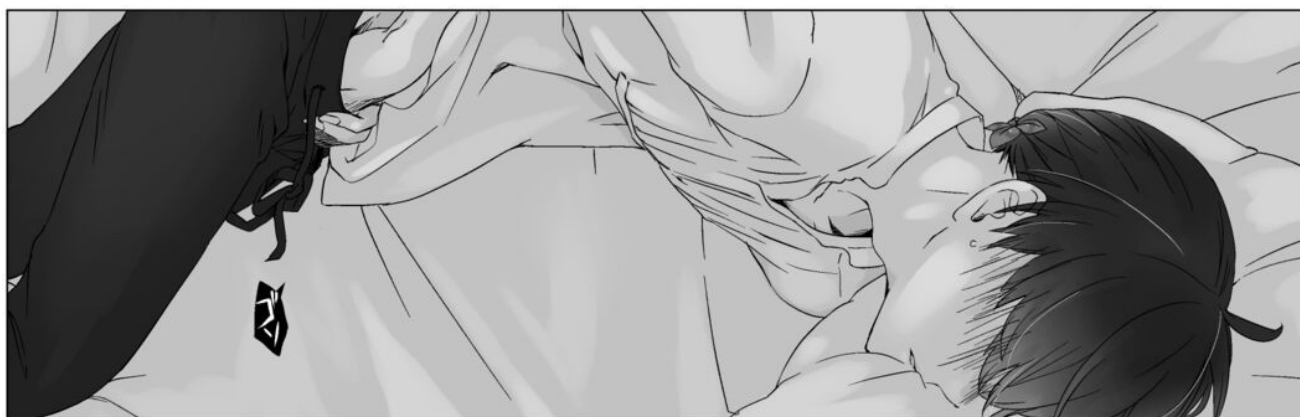
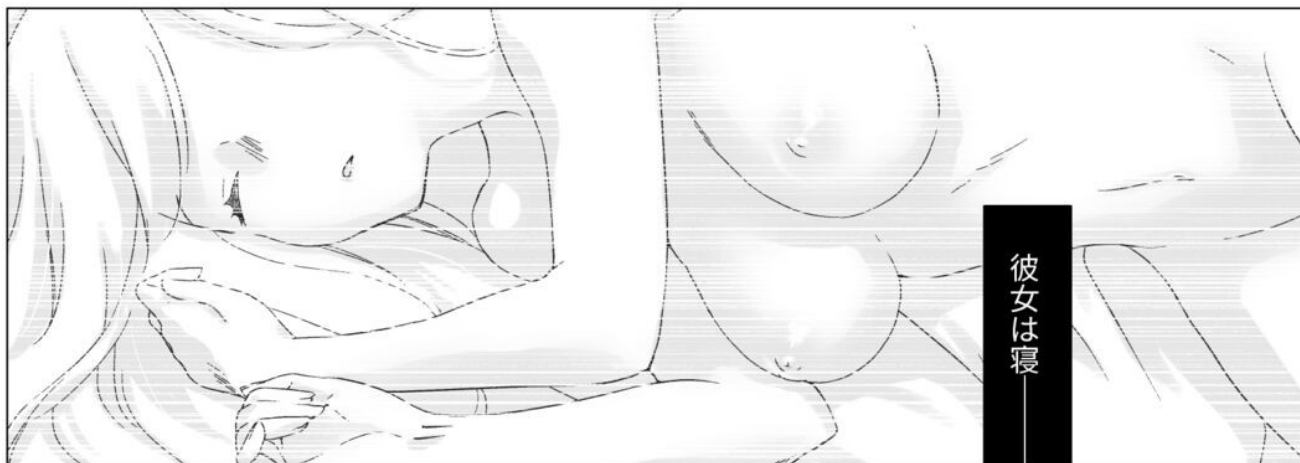


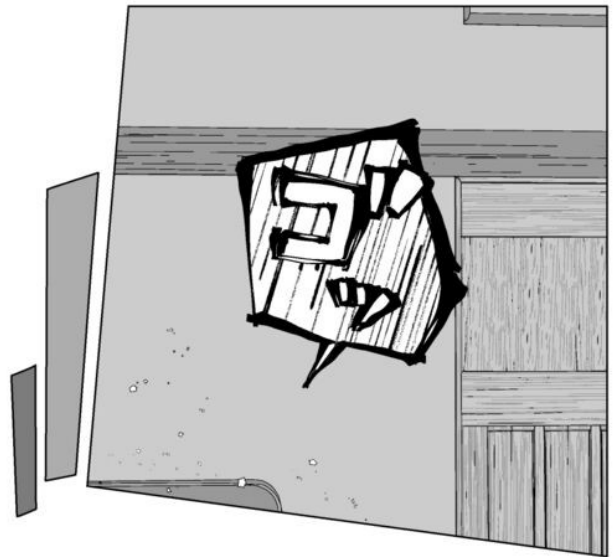




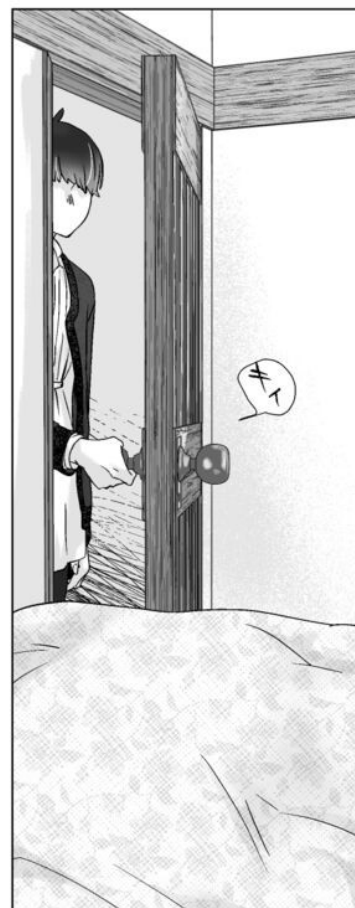
軽率で
迂闊
だった















肉体がずいぶん
不安定になっている



ブルーベルが
元気に
しているからと
我々が
油断していたんだ

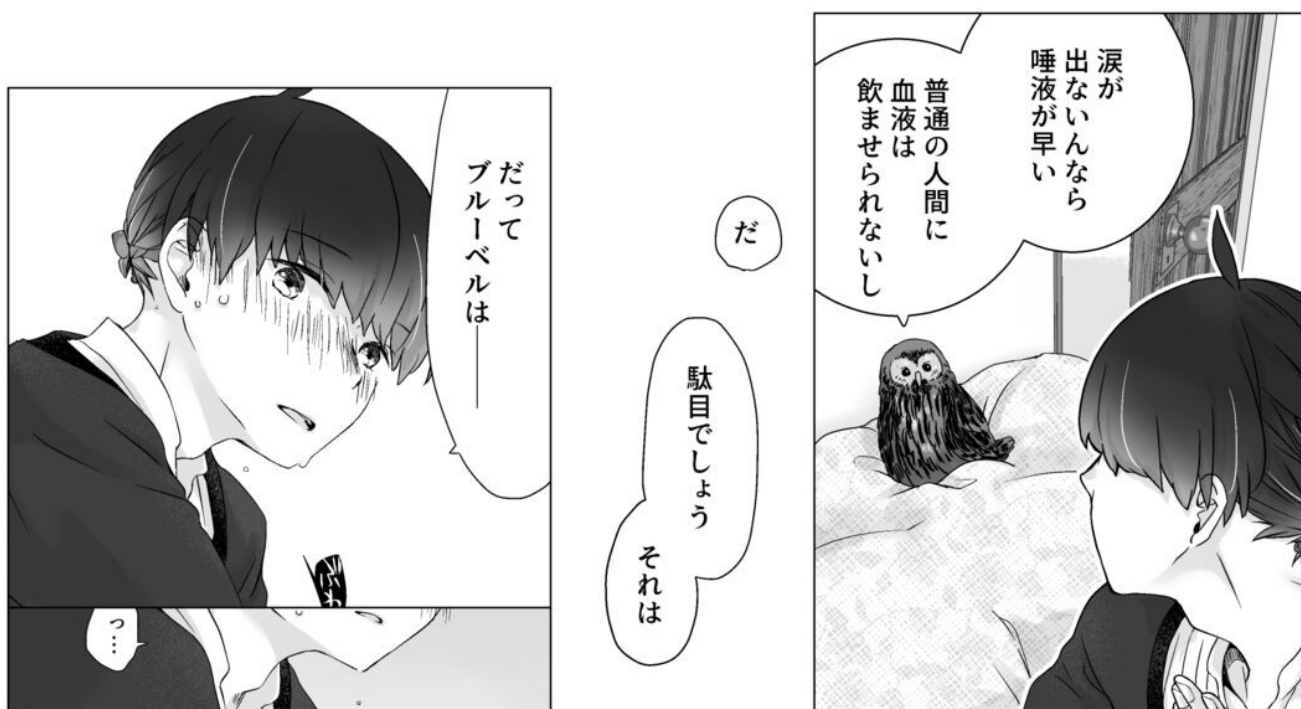
——まあ多分
今すぐに
どうこうは
ならない

——僕
慌ててるのか

大丈夫だ
泣くな



へっ……？



男が
女の子に
キスをする

なんて
そんなのは
まるで

お前が何を
想像してるかは

…まあ大体
わかるけど

安定するまで
ずっとこのまま
魔力を送り続ける
つもりかい？

即効性という点で
やる価値はあるよ

そうかも
しれませんが！

そんな 本人の
同意もなく

しかも
意識すらないのに
キスだなんて

は
…これだから
童貞は…

ほっといて
下さい!!

あれだろ
童話やらの

美女を
目覚めさせる
のは

王子の口づけと
相場が決まって
いるだろ

僕は王子じゃなく
魔法使いのほうです……

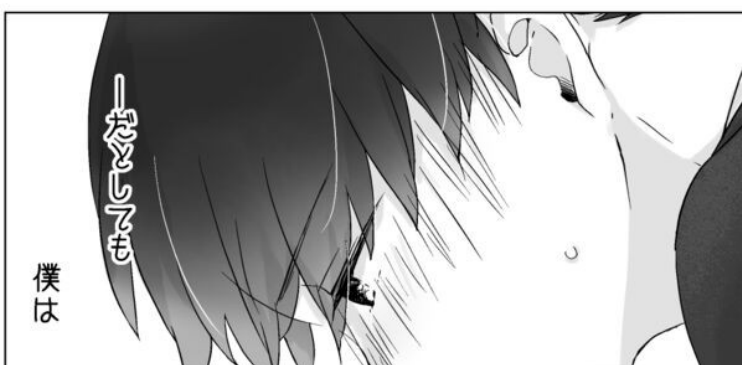
↑
この
で？

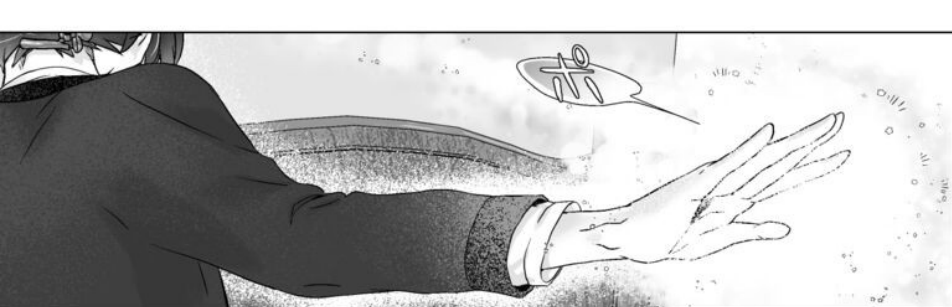
まあ 色々猥褻な
想像をしている
エドワードを
現実に引き戻して
すまないが

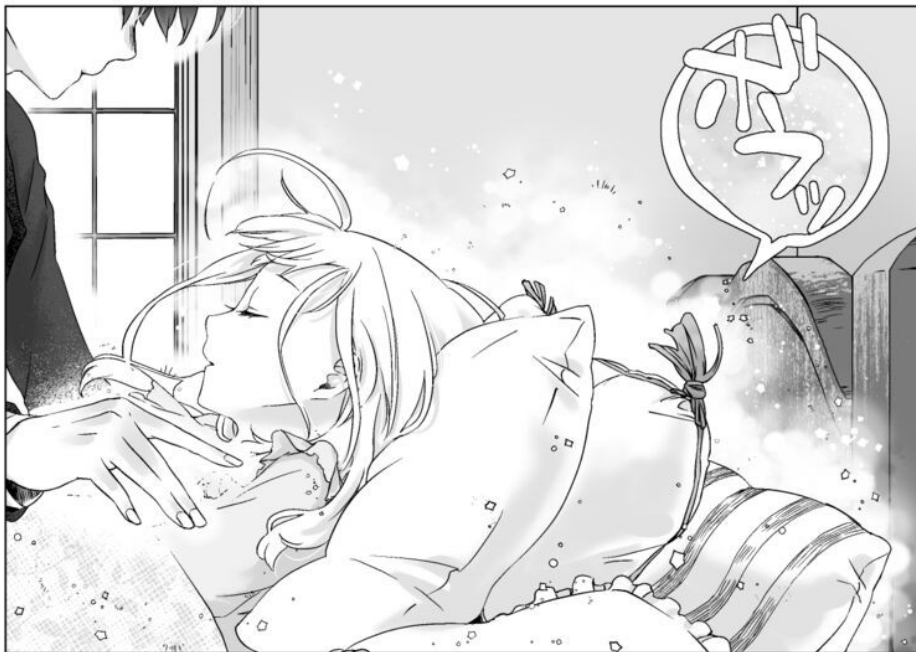
人間同士が
水難者を
蘇生させるのと
同じだよ

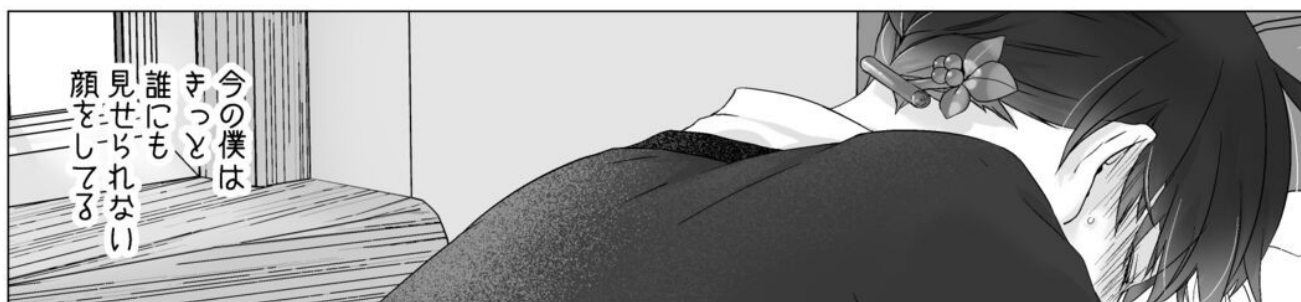
この手は
ブルーベルに
身体がないと
使えないんだぞ







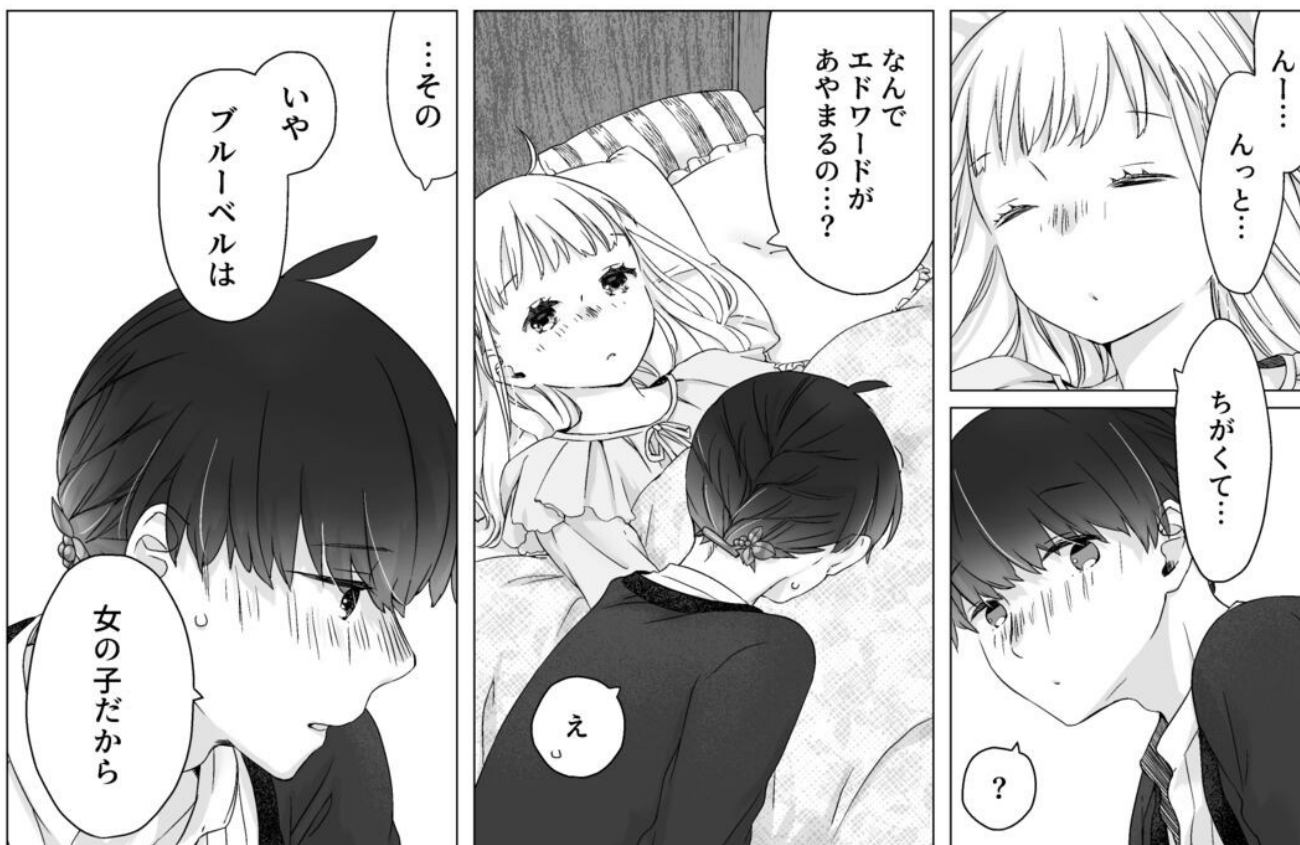
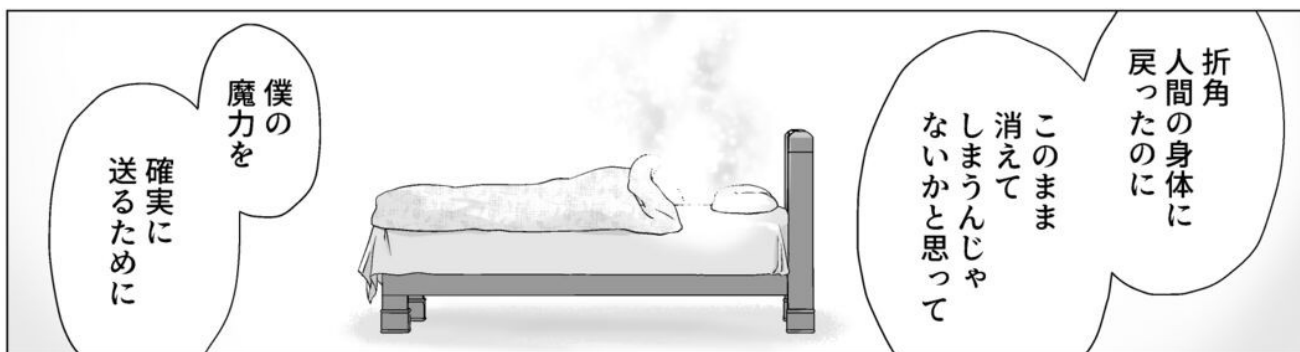




このまま
唇から溶けて
しまいそうだった











野暮な私に
言うことは
ないか？
エドワード



あまつさえ
それを良いことに
38分かけて
6回もキスを
楽しむとは！

うめ
しい!!

やっぱり
覗き見
してたんじや
ないですか!!

あと
楽しんで
ません!!



…さつきは
追い出して
すみませんでした

ま——私も
エドワード君の
人生で初めての
キスだってことに
配慮が足りなかったし
それはすまなかったよ

ただその直後愛弟子から
部屋ごと魔術強化されて
締め出し喰らうとは
シヨックだったな!!

ごめん
なさい



師匠相手に
僕の魔法はまだ
通用しないんだ…!

—ああもう

念のため
音声遮断



…じゃなくて
今後の話を

ああ

まず
ブルーベルに
関することは
対処法を含め
過去に前例がない

魔物に襲われた魂は
大抵 程なく消滅するし
そもそも
助けようと思える
魔法使いもいないからな

…はい
それは僕の
エゴです

別に責めて
いないよ

単に今まで
そういう奴が
いなかったって
だけだ

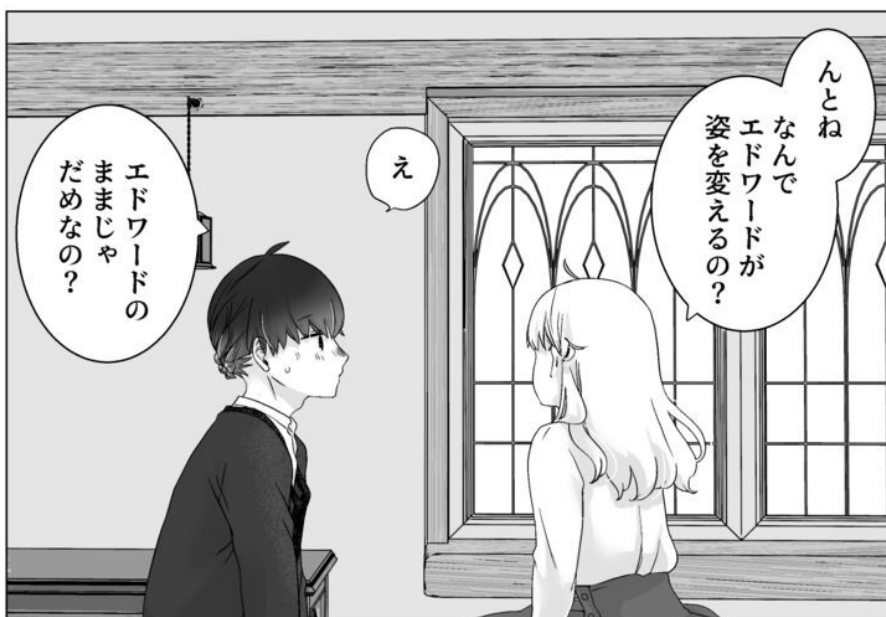
—つまり
ブルーベルのことは全て
我々が手探りで
対処するしかないんだが



















幼い頃に聞いた

ブルーベルの花畑に
迷い込んだ子供は
二度と戻らない
って言い伝え

でも
だけど



——この夜だけなら

魔法使いじゃなく
一人の男として

ブルーベル

君を









キスのやり方も

女性の服の
脱がし方も

順番も
なにもかも

全然わからない

でも

これだけは
わかる

ふ

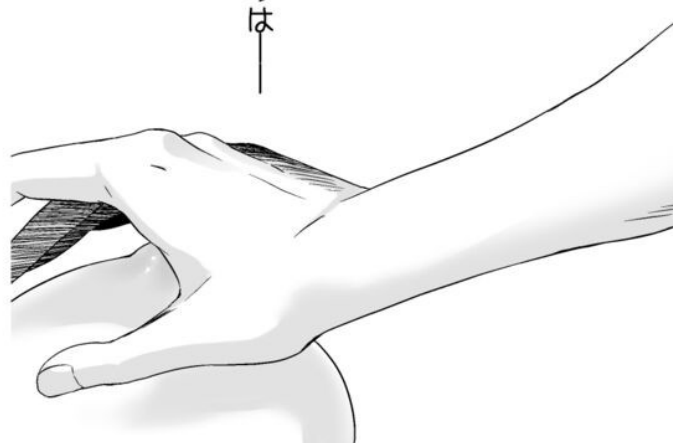
ブルーベル

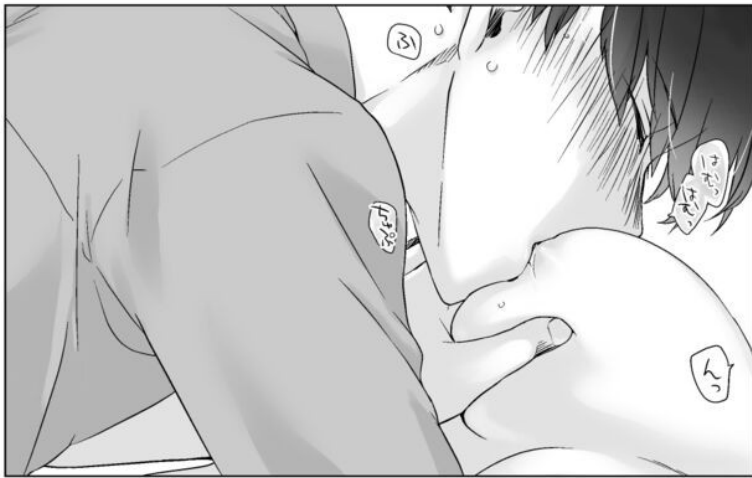


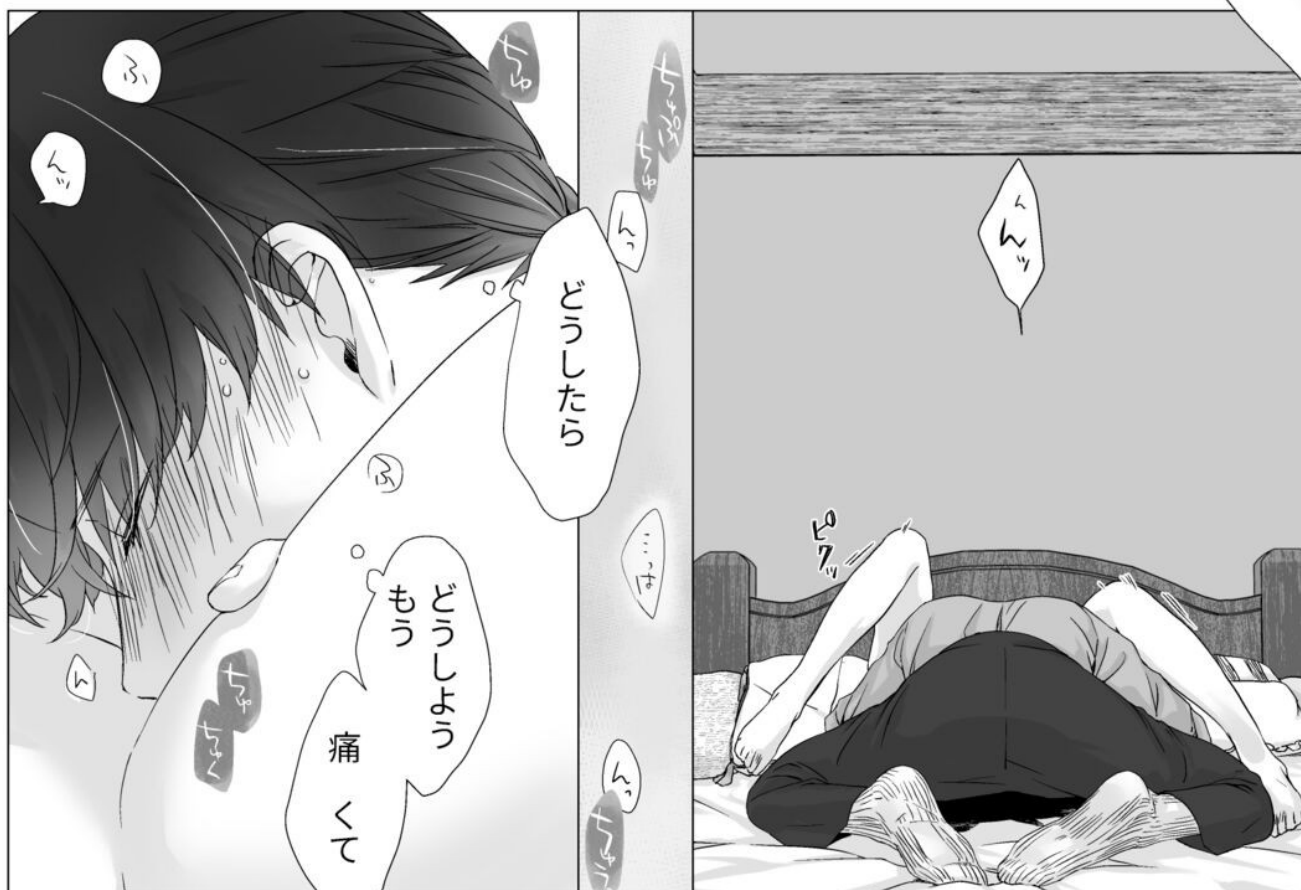
彼女の身体を
見るのは
二度目だ



触れるのは――









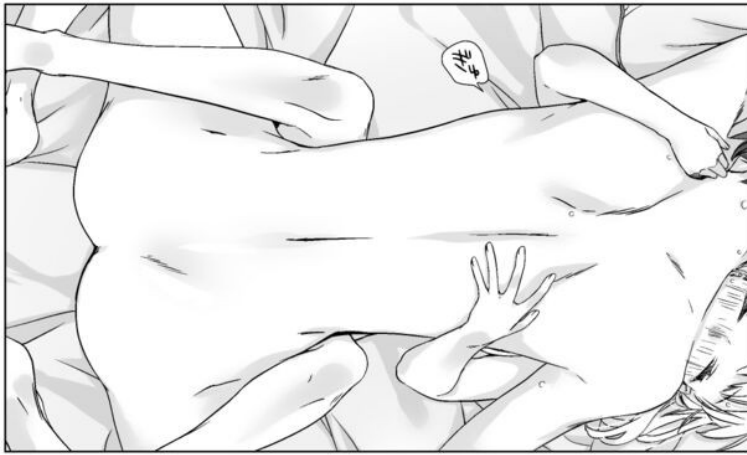
——もう
考えるな

どうしよう
とか

上手く
やらなきゃとか

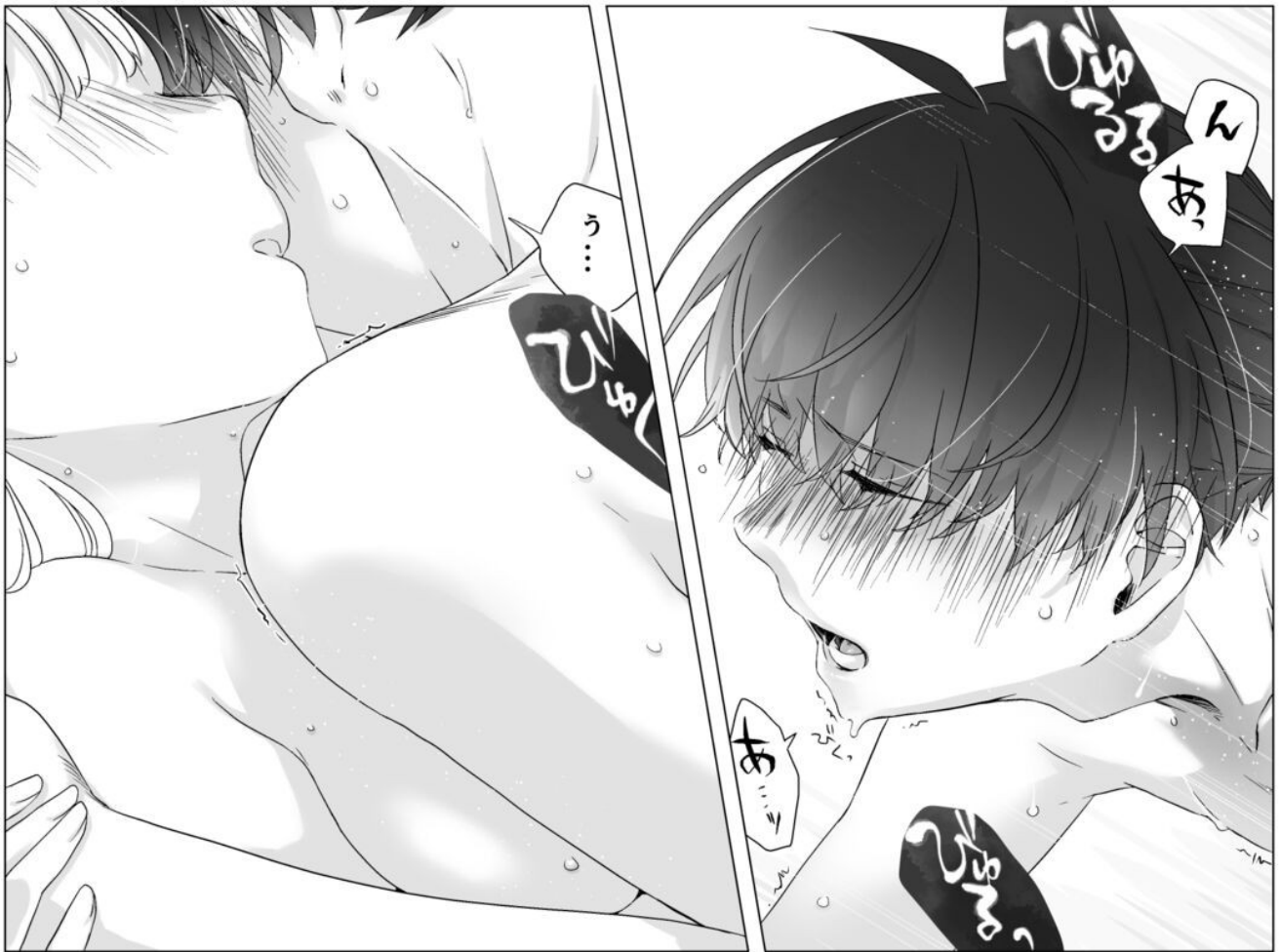
今は
エドワード
僕のままで









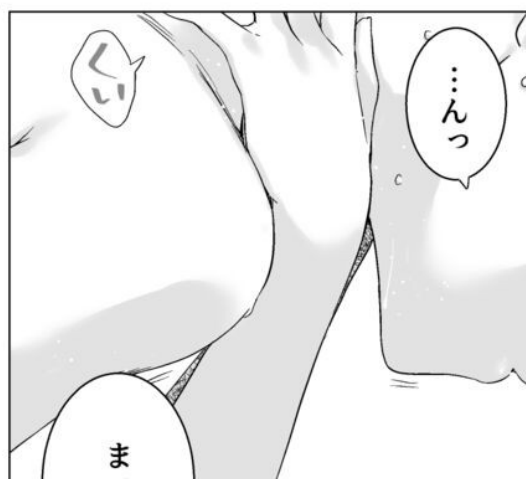


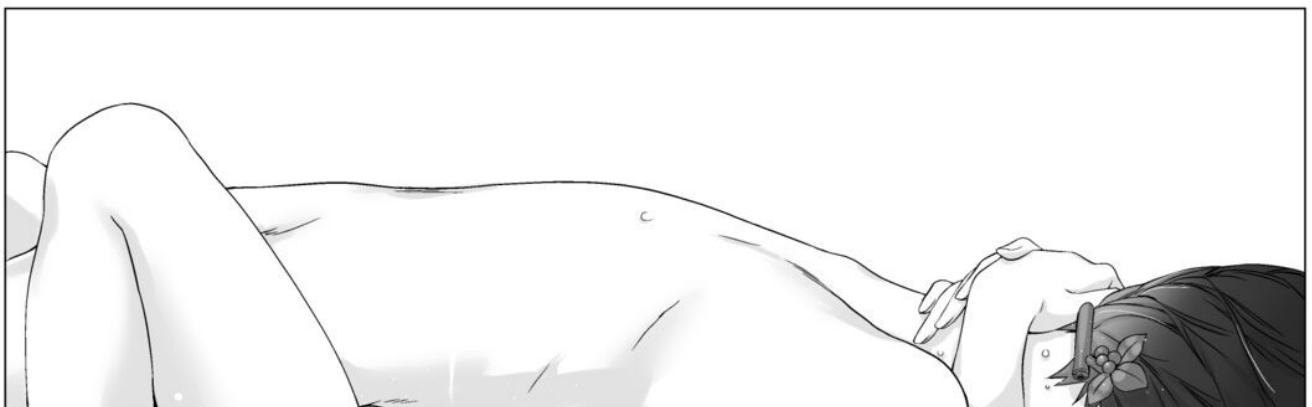
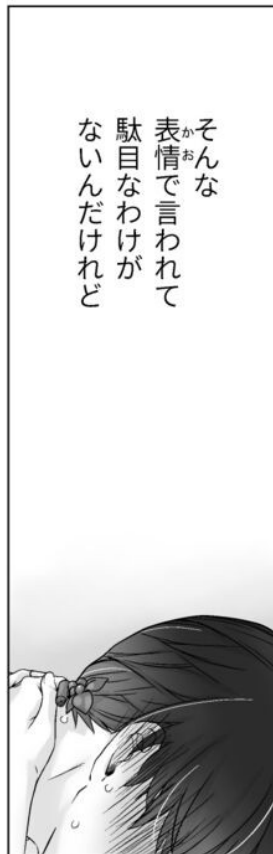


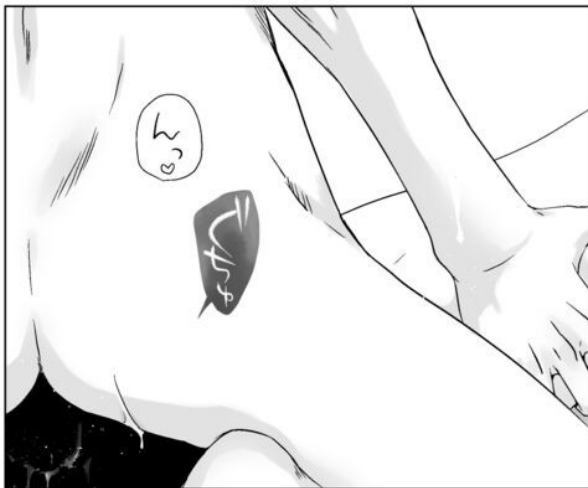
これで
ブルーベルが
消えずに
済むのなら

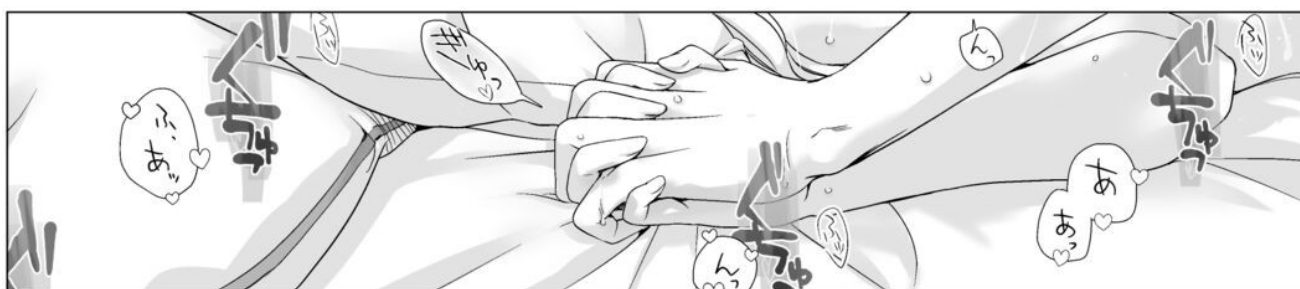
僕のことはい
どうでもいい
さうだ
...でも















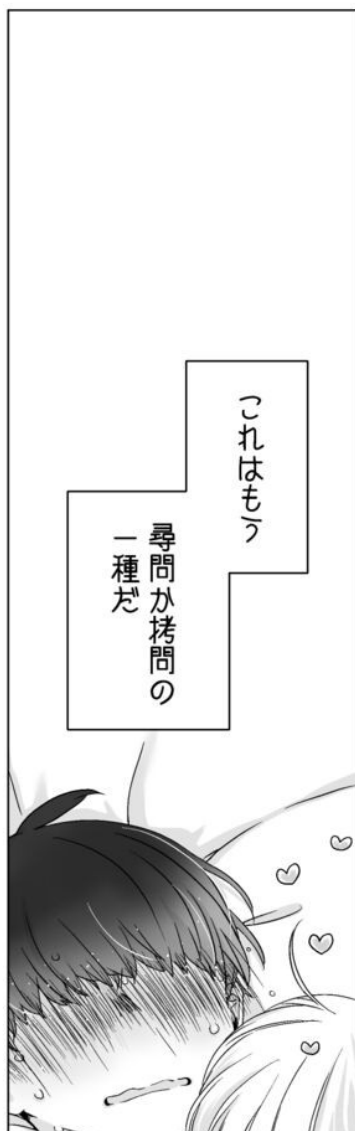
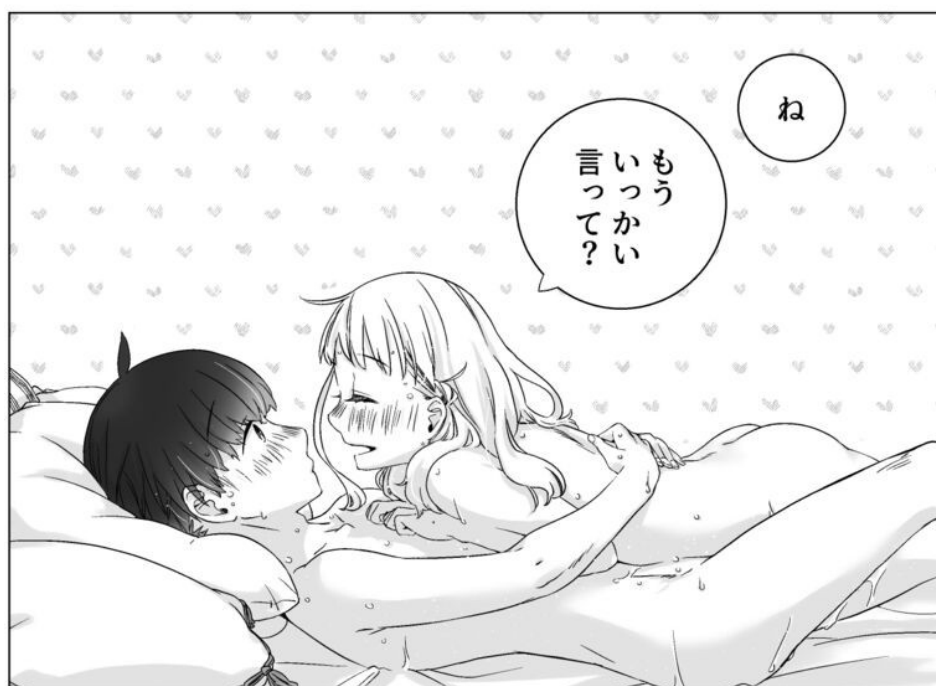










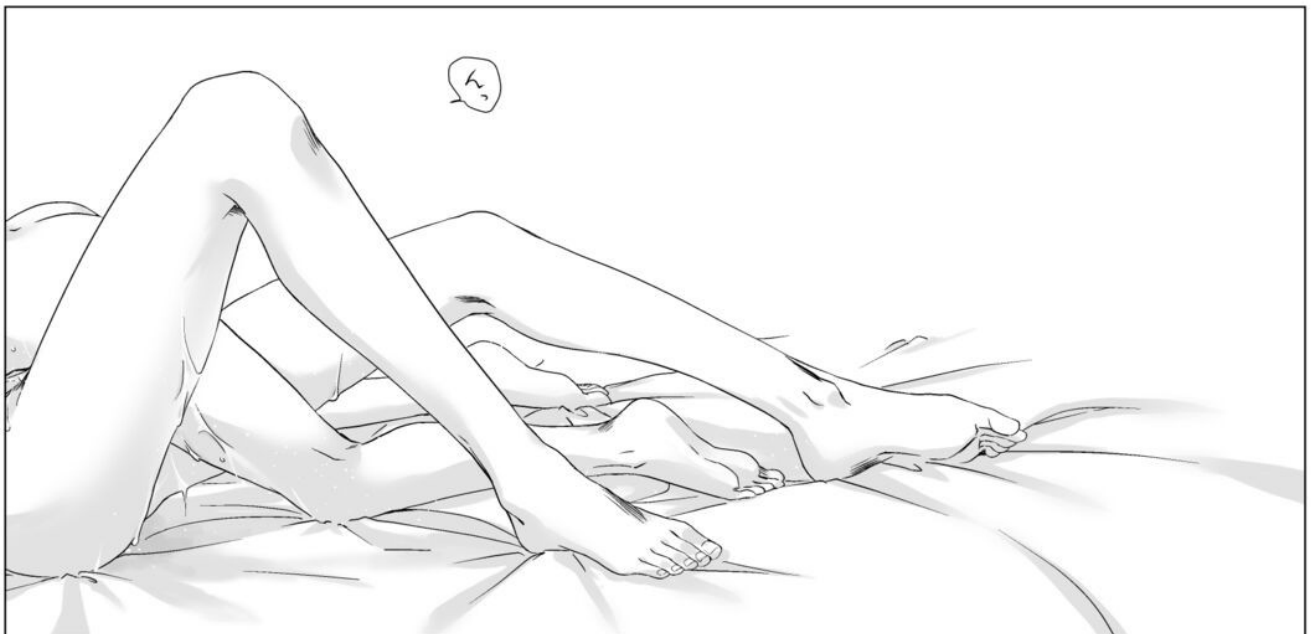


うん
でも

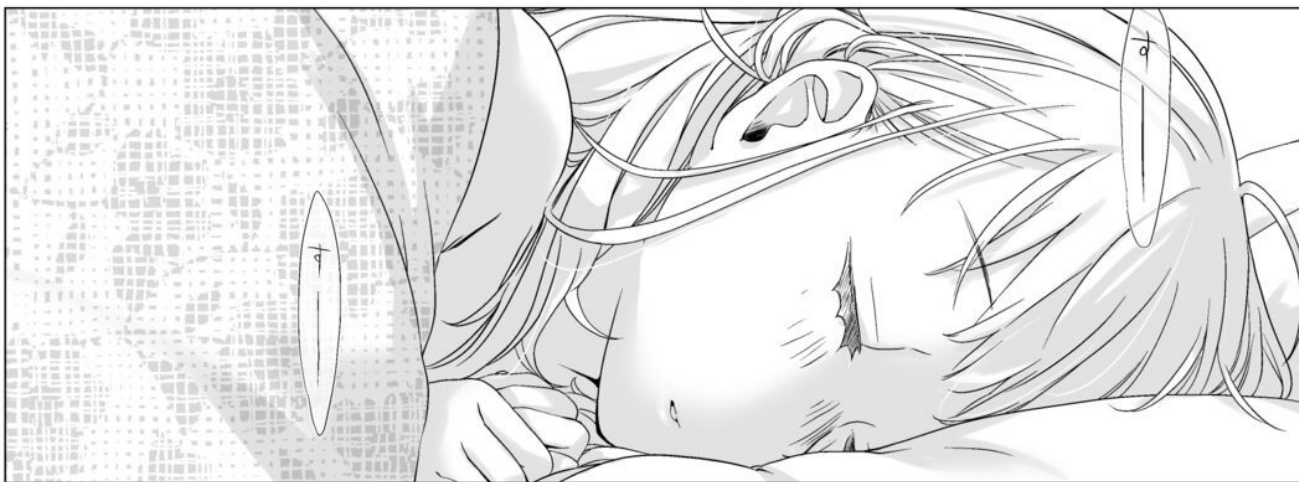
僕は
魔法使いの
ほうで

王子様には
なれないけど

だけど



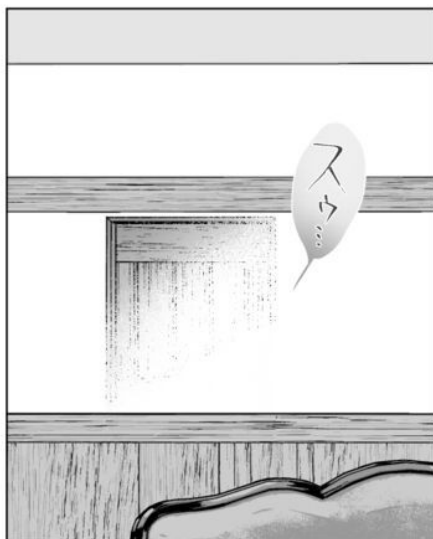








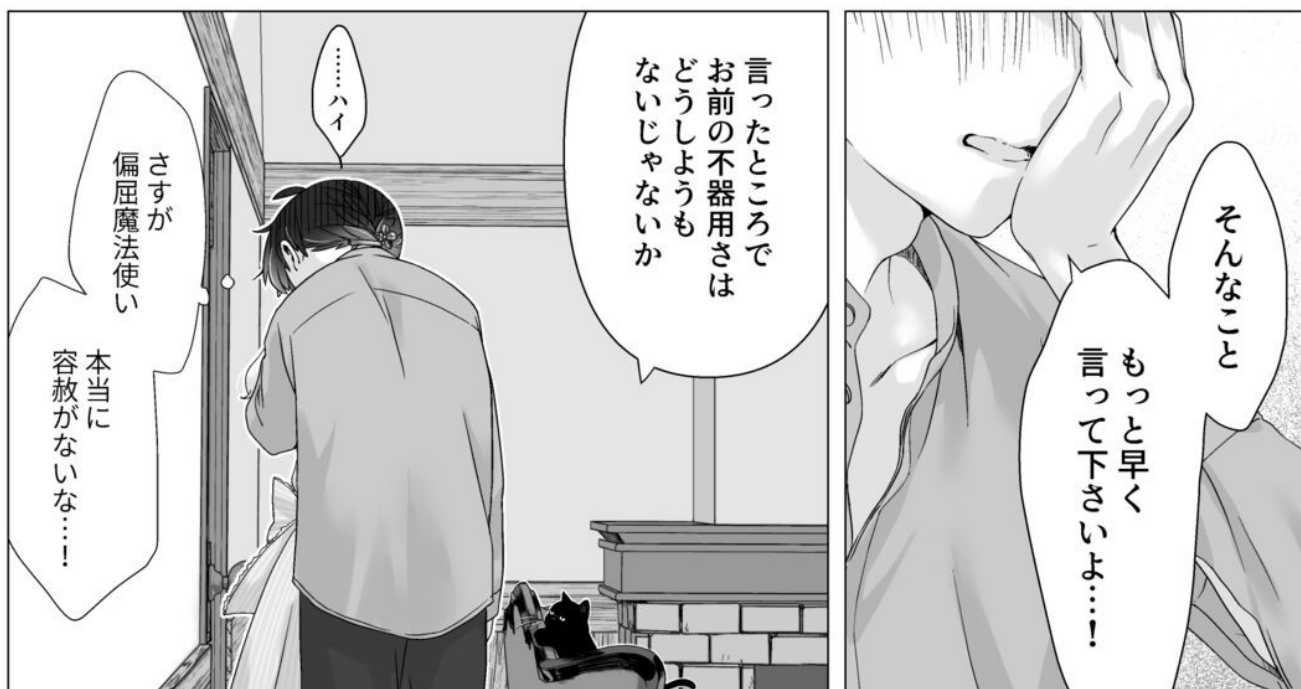
















蛇足的なあとがき

Extra Afterword



夕食
どうしよう...

でてきたひとたち
Character and Supplement
と、設定の補足

エドワード

見習いの魔法使い。

実際のところは
「一人前の魔法使い」と
言えるレベルだが、
不器用なことと
プレッシャーに弱く
いざという時こそ
ミスするせいで
見習い止まり。

Edward

エドワードの魔法的な成長が遅いのは、
本編中にもあるとおり
彼が魔力バカであり、かつ
かなり稀有な性質をしているため、
誰も彼に魔法の使い方を
教えられなかったせいでもある。
(ただし、それを抜いたとしても不器用)

髪を結ぶことで魔力を溜めているので
多少の事では解けない仕様の
エドワードの編み込み。
編んだ髪が長い程魔力が溜まるが
エドワードは師匠から髪を伸ばすなど
言われている(魔力過多になるため)

◀魔法使いのローブ

表紙で着てるのにも関わらず
本編中全然着てない。
エドワードは比較的人間に近い
生活をしているので普段は着ておらず
「魔法使いとして」外出する時に着る。

師匠

ベテラン魔法使い。

普段は自分の工房にいて、
エドワードの工房には使い魔の姿で現れる。
※エドワードの工房付近にその時に居た
動物の姿を借りるため、姿は毎回ランダム。

師匠自身、
エドワードには魔法の指導が出来ないので
名目上「師匠」ということになっているが
実際は後見人のような存在。

偏屈な癖に実はエドワードには割と甘い。

ブルーベル

人間の女の子。

エドワードの想像通り、
保護された時点では子供だった。

毎日エドワードが話しかけたり
本を読み聞かせたりしていたため、
知識等はそれなりに身につけている。

が、
精神的な面や思考、振る舞いなどは
思春期の少女のまま。

ブルーベルのドレス(エドワード製)▶

咄嗟に魔法で着せたドレス。
1着目・2着目のどちらも
100%エドワードの趣味と好みが出ている。

魔法で生成したもののなので、
時間経過で魔力が切れて消える。



おまけ「童貞魔法使い君(当時)の夜のなにか」



↑のような「自慰の一部始終を見られてたエドワード」を本編に入れようとしていましたが没にしたのでここで供養。ただの羞恥エピソード。

描いた人のごあいさつ

はじめましてのかた、あるいはいつもお世話になっておりますのかた、
こんにちは。青色観測所です。
「見習い魔法使い君と花の名前」を
最後までお読みいただきありがとうございます。

毎回、描くお話の設定を少しずつ変えているのですが、
「シリアス/悲恋」「学生もの/ゆる溺愛」ときて、
今作は「ゆるファンタジー/なんだか純愛」と相成りました。

ファンタジー感もR18感も
びっくりするくらい少なめになってしまいましたが、
今回も描きたいものを存分に描けて楽しかったです。

皆様にも楽しんでいただけていたら幸いです。

Special thanks

ご支援・応援してくださった皆様
長らくお待ちいただいた皆様



次も、見習い魔法使い君とブルーベルのお話を
描けたらな～と思っていますが、予定は未定ということで。

みなら まほう つか くん はな なまえ
見習い魔法使い君と花の名前

サークル/ 青色観測所
発行人 / 中原水芋
発行日 / 2022年9月5日
連絡先 / three_taimicroquettes@outlook.jp
Twitter / @imomizuimo

本作の内容は全て、無断転載・複製・複写・
インターネット(WEB・ブログ・SNS等)上への掲載を禁止します。

Unauthorized reproduction, duplication, alteration,
and posting on the Internet (web, blog, SNS, etc.) of all the contents
of this work are prohibited.

本作品はフィクションです。
登場する人物や地名などは、実在するものと一切関係ありません。

